

## 農業水利施設の効率的かつ計画的な保全更新対策の推進

安定的な農業用水の供給を維持するとともに、ライフサイクルコストの軽減に努め、農業の持続的な発展を支えます

### ASETマネジメントの推進

農業水利施設を健全な姿で次世代に引き継ぐため、ため池を含む基幹施設から末端施設まで県内施設全体を一つの資産としてとらえ、全ての関係者が目的や情報を共有し、適切な保全管理により、長持ちさせながら効率的かつ計画的な保全・更新を行う「農業水利施設ASETマネジメント」を推進しています。

また、保全・更新の際に節水型や循環型の施設へ改良するなど、琵琶湖をはじめとする環境保全に配慮しています。

種別	用水路		排水路
	開水路	管水路	
基幹水路 <sup>※1</sup>	269km	540km	48km
末端水路	4,500km	1,760km	5,857km
計	約13,000km		
基幹水利施設	136箇所 (ダム、頭首工、用排水機場等) <sup>※2</sup>		

※1：国営および県営造成施設で受益面積100ha以上の水路  
(ただし県営かんがい排水事業で造成された施設は、20ha以上)

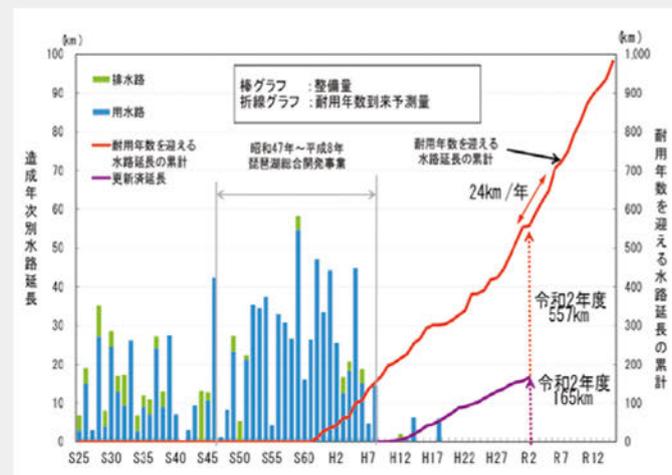
※2：受益面積が100ha以上の施設

### 本県の農業水利施設の現状と課題

滋賀県には、基幹的な農業水利施設としてダムや揚排水機場などが136箇所、用排水路にあっては、基幹から末端まで総延長で約13,000kmにもおよぶ膨大な水路が張りめぐらされていますが、施設の多くは、整備後40年以上が経過するなど、老朽化が進行しています。

また、農業者の減少・高齢化、農村地域の混住化が進行し、維持管理体制がせい弱体化しています。

こうしたことから、適切な保全と計画的な更新を行い、併せて地域ぐるみの共同活動を推進することにより、農業生産に不可欠なこれらの農業水利施設を保全する必要があります。



幹線的な水路の整備延長と標準的な耐用年数が到来する延長の推移 (県全域)

### 突発的な事故等の発生

近年、施設の老朽化に伴う揚水機の緊急停止や管水路の漏水事故などの突発的な事故が多発しています。

特に、滋賀県には、琵琶湖からポンプで送水する施設が多く、漏水事故などが発生すれば、農業生産だけでなく、地域の生活にも多大な影響を及ぼすことが懸念されることから、施設のリスク管理<sup>※3</sup>が求められています。



## 農業水利施設アセットマネジメント中長期計画

施設のリスク管理を行いつつ、施設機能の監視・診断・補修・更新を効率的かつ戦略的な保全対策の10年間の実施計画として、「滋賀県農業水利施設アセットマネジメント中長期計画」を策定しており、この中長期計画に基づき、関係者が協働でアセットマネジメントの取組を行っています。

国、県、市町、土地改良区、農業者、地域住民等が施設の情報を共有し、それぞれの役割分担のもと緊密に連携をしながら、次の3つを基本方針とした滋賀県独自のアセットマネジメントを推進します。

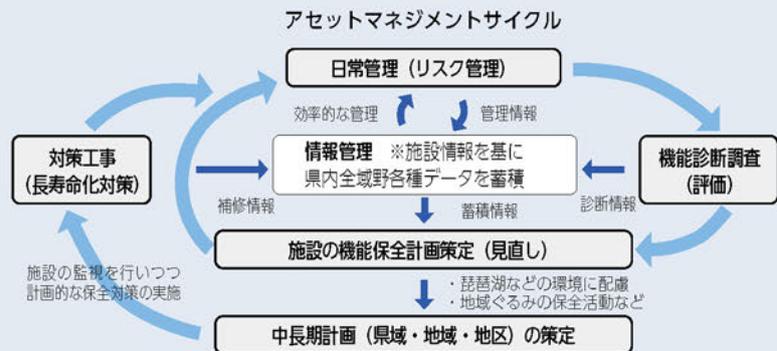
**推進方針①** アセットマネジメント手法により効率的で計画的な保全・更新対策を推進します

**推進方針②** 琵琶湖などの環境保全に配慮した節水型・循環型の対策や生物多様性などに配慮した対策を推進します

**推進方針③** 施設の多面的機能が一層発揮できるように、施設管理の体制整備や地域ぐるみの保全活動を推進します

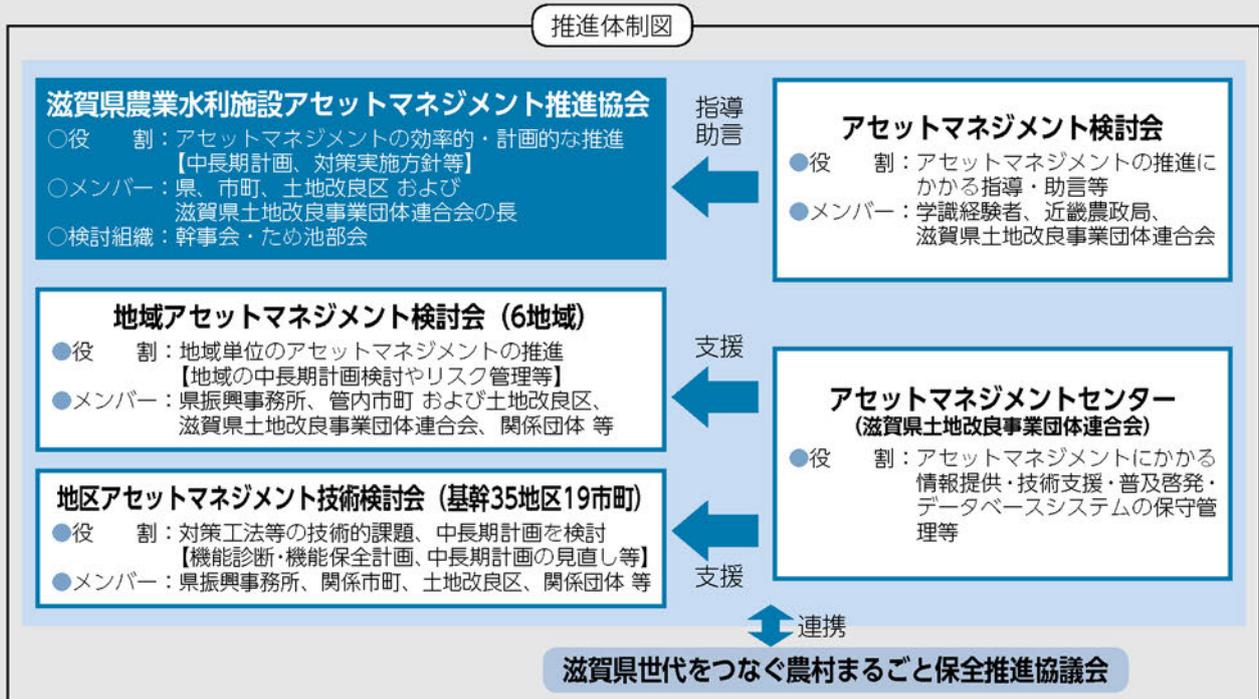
### アセットマネジメントの取組

施設管理者による適切な日常管理を基本に、継続的なデータの蓄積を行い、効率的な機能診断調査、計画的な予防保全の取組を実施し、施設の長寿命化とライフサイクルコスト<sup>\*4</sup>の低減を目指しています。



### 農業水利施設アセットマネジメントの推進体制

「滋賀県農業水利施設アセットマネジメント推進協議会」を中心として、関係者が情報を共有し、それぞれの役割分担のもとアセットマネジメントを推進しています。



\*3 リスク管理…さまざまな危険を、最少の費用で最小限に抑えようとする管理手法。危機管理

\*4 ライフサイクルコスト…施設や構造物などの調達から、使用、修繕、耐用年数の経過により廃棄処分するまでの全過程に要する費用